

船舶事故調査報告書

平成25年9月5日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成25年2月24日 07時00分以降の宮城県気仙沼市所在の上段灯台から真方位093° 1, 125m付近のかき養殖いかだに太陽丸を係留した時刻～14時00分ごろの間）
発生場所	気仙沼市大島瀬戸 上段灯台から真方位093° 1, 125m付近 （概位 北緯38° 52.8′ 東経141° 37.1′）
事故調査の経過	平成25年2月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 太陽丸、0.4トン MG3-47088（漁船登録番号）、個人所有 6.08m (Lr) × 1.30m × 0.60m、FRP ガソリン機関、30kW（動力漁船登録票による）、不詳
乗組員等に関する情報	船長 男性 71歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成16年11月4日 免許証交付日 平成20年11月4日 （平成26年11月3日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成25年2月24日07時00分ごろ自宅を出発し、前日に入れた刺し網の揚網を行うため、気仙沼市大島の馬越場浜の船だまりから大島瀬戸の漁場に向かった。 船長の家族は、午後になっても本船が帰港しないので、13時30分ごろ僚船に捜索を依頼したのち、海上保安庁に通報した。 本船は、14時00分ごろ、上段灯台から093°（真方位、以下同じ。）1, 125m付近において、無人でかき養殖いかだに船尾からロープを取って係留しているところを僚船が発見された。 船長は、本船が発見された場所から東北東方400m付近の浅瀬で海面に仰向けの状態で浮いているところを僚船が発見し、病院に搬送

	<p>されたが、死亡が確認され、死因は溺水と検案された。</p> <p>本船は、後日、僚船に馬越場浜の船だまりまでえい航された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 雪、風向 西～北西、風力 3～6、視界 不良</p> <p>海象：波向 西、波高 約1m、海面水温 約8℃</p> <p>気仙沼市に2月23日22時41分波浪注意報が発表されて本事故当時には継続中であり、翌24日03時51分暴風雪警報が発表されていたが、13時02分風雪注意報に切り替わった。</p>
その他の事項	<p>船長は、年間を通じて刺し網漁の操業を行っており、その合間にウニやアワビなどの磯見漁<small>いそみ</small>を行っていた。</p> <p>船長は、ふだんから1人で操業を行っていた。</p> <p>本船は、発見時、船外機のプロペラに刺し網が絡まった状態であり、長さ約13～15mの刺し網が甲板上に揚収されていた。</p> <p>本船には、揚網機は装備されていなかった。</p> <p>船長は、発見時、長袖のトレーナー、セーター、ズボン、上下の合羽及び軍手にゴム手袋を着用し、ゴム長靴を履いていた。</p> <p>船長は、発見時、黄色の救命胴衣を着用していたが、救命胴衣の中に頭部をうずめている状態であった。</p> <p>本船には、他船と衝突したような痕跡はなかった。</p> <p>船長は、ふだん、出漁する際は携帯電話を所持していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長の死因は、溺水であった。</p> <p>本船は、07時00分以降に馬越場浜の船だまりを出航したのち、14時00分ごろ、上段灯台から093°1,125m付近において、無人でかき養殖いかだに船尾からロープを取って係留しているところを発見されたことから、07時00分以降の同かき養殖いかだに本船を係留した時刻～14時00分ごろの間において、本船が同かき養殖いかだに係留中、船長が落水したものと考えられる。</p> <p>本船は、発見時、約13～15mの刺し網が甲板上に揚収されていたこと、及び船外機のプロペラに刺し網が絡まっていたことから、船長が、刺し網の揚網中、絡まった刺し網を外そうとして落水した可能性があると考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、馬越場浜の船だまりを出航後、上段灯台東方沖のかき養殖いかだに係留中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>

参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 出漁前に気象情報を入手し、荒天の場合は、出漁を見合わせるこ と。・ 救命胴衣は、適切な着用を心掛けること。
-----------	--